

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都府中市幸町 2-13-29
園名	ぱる★キッズ府中

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じ、生活へ広がる木育活動 ～身近な木との出会いからものづくり体験へ～

〈① 日々の散歩や戸外遊びの中での木の特徴探しや、発見〉

<テーマの設定理由>

「ぱる★キッズ探検隊」の活動で木の表面に触れた際、「つめたい!」「あったかい!」という声が聞かれ、ゴツゴツした木は温かく、ツルツルした木は冷たいと発見する子がいた。同じ木でも温度の感じ方が違うことへの気づきをきっかけに、散歩・公園遊びを通じて木の表面・形・匂い・音など様々な特徴に気づけるよう木育活動を展開した。

(注)「ぱる★キッズ探検隊」とは専門家を講師に招いた自然遊び行事で、この日は「冷たい・あったかい」をテーマに、室内にて氷やウソクの火を体感し、その後戸外へと活動の場を広げ冬の空気や自然物を探索した。

## 2. 活動スケジュール

- ①. 散歩の中で木の違いに気づく(表面や、温度、)…12月
- ②. 木の皮を集めて観察する…12月～1月
- ③. 様々な木の特徴探し…12月～1月

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

公園にある木々、木の皮、どんぐり・枝などの自然物、箱  
散歩・公園での木との触れ合いを日常的に取り入れる

## 4. 探究活動の実践 ①

<活動の内容>

1. 散歩の中で木の違いに気づく…12月  
散歩中に木に触れながら、木の表面の違い(つるつる・ざらざら)に気づく活動を行った。サルスベリなど木の名前を知り、別の公園でも見つけて確認するなど、身近な環境への関心を深めた。
2. 木の皮を集めて観察する…12～1月  
公園で木の皮・枝を集め、形や手触りの違いを観察した。枝や皮を叩いたり擦ったりして音の違いにも注目する活動を行った。
3. 様々な木の特徴探し…12～1月  
木の穴や、切り株・根っこに注目し、気づきや考えたことを伝えたり、遊びに発展した。

## ＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

### 1. 散歩の中で木の違いに気づく

保育者：「なんでつるつるとザラザラの気があるんだろうね」と問いかけると、子ども：「オスとメスなんだよ」と木の違いに自分なりの理由を考える姿が見られた。また、ツルツル木を見つけ「この木はなに？」と聞く子もいて木についての表示を読み「サルスベリだよ」と伝えた。お散歩で通る道や、別の公園で発見すると「サルスベリだ！」と嬉しそうに触って確かめていた。

### 2. 木の皮を集めて観察する

みんなが集めたものを大きめの箱に入れると囲うように集まる。「ざらざら！」「ツルツルだね」「クマみたい！」「これはバス！など手に取った物の形や感触の違いを見つけたり、枝や皮を叩いて「トントンって音する！」「これはザッザッって聞こえる！」と木から生まれる音にも興味を示し、子ども同士で気づきを伝え合う姿が多く見られた。

### 3. 様々な木の特徴に気付く

#### ●穴の開いた木

幹にあるトンネルのような穴を見つけると「虫がいるんじゃない？」と中を観察。よく見たけど見つからなかった。すると今度はどんぐりや石を転がす遊びが始まり楽しんでいた。木の根っこ近くの穴を見つけると「虫さんいるかな？」と木の枝でホジホジ。別の子が来て「こうやるといるよ」と手で穴にある落ち葉をどかすとダンゴムシが出てきた。

#### ●木の切り株

公園にある切り株に集まって木の皮や石をならべたり切り株の穴の中に詰めて遊ぶ。切り株の断面と木の皮の表面とを見比べ、子ども：「皮はざらざらしてるね」といったので、保育者：（切り株を使って）「この皮はこの部分だね」とあてながらみせた。すると「皮と中で色も違う！」と新たな発見をしていた。大きな木の根っこを見つけてみんなでまたがり、電車やバスごっこ。平均台のように遊ぶ子もいた。

【活動の様子】別紙参照：活動報告書① 子どもたちの様子（あったかい・つめたい）.pdf

## 5. 振り返り

### ＜振り返りによって得た先生の気づき＞

身近な親しみのある公園で行うことで、安心できる場でのびのびと楽しめていた。

その中で日々気づかなかった発見も多くあり、子どもたちだけでなく保育者も、自然への興味や感心を更に広げることができた。

日常と密接に繋がっている場での活動だった為、次の活動や展開への流れをスムーズにつくることができた。